

“PEACE”



東京平和構築シンポジウム 2008 アウトリーチ・イベント

“平和構築の学園祭@国連大学オープンキャンパス”

【授業 3 コマ】「90 秒間で語る平和構築」

16:30-17:30

2008 年 3 月 25 日(火)

国連大学ビル 3F ウタント・ホール

外務省・国連大学共催

協力: UNDP、UNV、UNHCR、UNICEF、WFP、ILO、
UNFPA、UNOPS、IOM、ジャパン・プラットフォーム、
YDP Japan Network、UNHCRユース

平和構築の学園祭
@ 国連大学オープンキャンパス

平和構築の学園祭@国連大学オープンキャンパス

【授業3コマ】「90秒間で語る平和構築」

時間 16:30-17:30(於:ウタント・ホール)

3
月
25
日

プログラム

平和をつくるって、どういう意味がよくわからないけど、単純な足し算ではないことは何となくわかる。お金や技術や力の量だけで、平和はたぶんつけれない。だからいろんな人の平和への想いを聞いてみたい。そして一緒に考えてみたい。そこから何かが始まる予感があるのです。

司会

岸守一 (UNHCR駐日事務所副代表)

外務省での勤務の後、緒方貞子元国連難民高等弁務官にあこがれて2005年6月より現職。UNHCRでは、日本のNGOの魅力をアピールする「人道支援における日本のレシピ」や平和構築フォーラム共同発起人、UNHCRユースの立ち上げ等を仕かける。現在は、J-FUNと共に「普段着の難民支援」を推進中。

根本かおる (日本 UNHCR 協会事務局長)

テレビ局入社後にフルブライト奨学生としてコロンビア大学大学院へ留学、修士号取得後、1996年から国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 勤務。トルコ、ブルンジ、コソボ、ジュネーブ本部、ネパール事務所などを経て、2007年6月から現職。雑誌「ロハスキッズ」で、難民の子どもたちのたくましさについて連載中。

メッセンジャー

プロフィール

(登場順、敬称略)

宮崎京 (女優・モデル)

熊本県生まれ、2003ミス・ユニバース®・ジャパン、パナマにおける世界大会で5位入賞。エイズ撲滅や難民支援活動にも参加。

田中章義 (歌人)

1970年静岡県生まれ。慶應義塾大学総合政策学部1年のときに第36回角川短歌賞を受賞。以後、「地球版・奥の細道」づくりをめざし、世界を旅しながら、ルポルタージュ、紀行文、絵本etc.を執筆。NHK「ソリトンSIDE-B」レギュラー出演、J-WAVE「アクロスザビュー」(DJ深津絵里)で詩の連載、SBS開局50周年番組(TBS系列で全国放映)で女優の岸本加世子さんとともに中国の世界遺産を訪問。BEGIN・遠藤久美子・ミネハハなど、ミュージシャンへの歌詞提供。世界で詠んだ短歌が英訳され、2001年WAFUNIF親善大使に就任。角川書店・講談社・マガジンハウス・岩波書店・東京新聞出版局・サンマーク出版・学研・PHP研究所などから20冊ほどの単行本を出版。JICA「21世紀のボランティア事業のあり方」検討委員、ワールドユースピースサミット平和大使などを務める。

久保田弘信 (フォト・ジャーナリスト)

岐阜県出身。大学卒業後フリーカメラマンとしてインド大地震を取材。以来、アジア・中東を舞台に取材を続ける。ニューヨークテロ事件以前からアフガニスタンにて取材、アメリカによる攻撃後はパキスタンへ流入する難民を追う。難民の子供たちの素顔を捉えた個展を多数開催。2003年3月のイラク戦争では日本のテレビ局に戦火の様子をバグダッドから連日レポートした。個展「AFGHANISTAN REFEGE INCH'ALLAH」(2001年)、写真集「Who? 報道されないアフガンの素顔」(平和出版)、「空爆の下で・僕らの知らないイラク戦争」(ASIA NEWS)。

渋谷ザニー（モデル兼デザイナー(ミャンマー難民)）

1988年のミャンマー民主化運動に参加して日本に逃れてきていた父親を頼り、8歳のときに日本に亡命した。小中高と日本の学校に通い、高校生の頃からティーン誌のモデルの仕事を始め、亜細亜大学に入学、アメリカ留学後は渋谷109②のキャンペーンモデルに選ばれビルボードになった経験を持つ。現在では大学を卒業しフリーランサーのファッションデザイナーとして2社のアパレルブランドと契約をし、プロデュースに参加している。

エミール・ルワマシラボ（駐日ルワンダ大使）

1951年、ルワンダ生まれ。ルワンダで初等、中等教育を受け、セネガルのダカル大学医学部を卒業後、フランスのリール大学に留学。フランスにおいて外科医を務め、その後ウガンダのマケレレ医科大学およびルワンダ国立大学において泌尿器学を实践、教授。1998年から2004年までルワンダ国立大学学長を務めた後、現職。

アリス・ウルサロ・カレケジ（ルワマシラボ大使夫人）

エクス・マルセイユ大学卒業後、アビジャン(コートジボワール)、パリ、ブリュッセルの法律事務所にて法務官として勤務。国立ルワンダ大学紛争管理センターの共同設立者であり、法学部において犯罪学と社会科学手法を教える。正義と和解の相互作用と市民参加による分断された社会の再構築、また伝統的な制度を活用した和解プロセス(ガチャチャ Gacaca)に焦点を当てた研究を行っている。1996年にルワンダ国際刑事裁判所のジェンダー部門委員に就任。1999年には国連総会にて性的虐待犠牲者に対する賠償制度の政策提言を行う。米国マッカーサー基金、フォード基金やソロス基金と提携した紛争と和解に関する研究やプログラムの作成。マギル大学(ケベック)、カルフォルニア大学バークレー校、ヨーク大学(トロント)などでの講義多数。

牛尾 滋（外務省中東アフリカ局アフリカ第一課長）

1986年東京大学法学部第三類卒業後外務省入省。欧亜局東欧課、経済協力局開発協力課、アジア局南東アジア第一課、大臣官房を経て在マレーシア日本国大使館、在フランス日本国大使館勤務。2006年9月より現職。

岡井 朝子（外務省国際協力局人道支援室長）

1989年一橋大学卒業後外務省入省。英国ケンブリッジ大学卒業。文化交流部文化第二課、経済協力局政策課、同局調査計画課、内閣官房安全保障危機管理室、欧亜局西欧第二課等を経て在パキスタン大使館、在豪州大使館勤務。2005年8月より経済協力局政策課首席、同課企画官等を経て、2007年3月より現職。UNICEF、WFP、UNHCR等9つの人道機関を所掌。

戸田 隆夫（独立行政法人国際協力機構(JICA)国際協力総合研修所審議役(新研究戦略担当)）

京都大学法学部卒、東京大学大学院新領域創生科学研究科にて修士号取得、名古屋大学国際開発研究科博士課程後期在学中。1984年より、JICAに入職。改革推進室長代理、米国外務省次長、平和構築支援室長、人間の安全保障グループ長、などを経て現職。非暴力の外部介入としての国際協力が、世界の貧困問題と武力紛争の解決に、どこまで貢献することができるのか、というテーマについて、よりよく知り、かつ行動することがライフワーク。ザイール、ルワンダ、イラク、スーダン等、貧困と紛争が相互に影響しあう国々にて仕事を続ける。

木山 啓子（特定非営利活動法人ジェン(JEN)理事・事務局長）

1994年よりJEN旧ユーゴスラビア地域代表として難民・避難民支援活動に従事。『心のケアと自立の支援』をモットーに、コミュニティサービスを中心とした、緊急支援、シェルター、収入創出、職業訓練、医療、民族融和・平和構築、教育など多様な事業を実施。これらの多くは、国連機関の委託事業である。旧ユーゴでは述べ14ヶ所の事務所を立ち上げ、約500名に及ぶ現地のスタッフを統括した。現在は、アフガニスタン、パキスタン、イラク、スリランカ、南スーダン、新潟に展開するJENの事務局長を務める。2007年よりJANIC理事。米国ニューヨーク州立大学バッファロー校社会学大学院修士課程修了。2005年エイボン功績賞受賞、日経ウーマン誌ウーマン・オブ・ザ・イヤー2006大賞受賞。

熊岡 路矢（前日本国際ボランティアセンター(JVC)代表理事・国際協力NGOセンター(JANIC)理事）

1980年、日本国際ボランティアセンター(JVC)の創設に参加。以来世界各地で国際人道支援活動に携わる。1995年から日本国際ボランティアセンター(JVC)代表理事、国際協力NGOセンター(JANIC)理事。主な著書として「カンボジア最前線」(岩波新書)、「NGOの挑戦」(めこん社)がある。現職は東京大学大学院総合文化研究科客員教授、難民審査参与員(法務省)、UNHCR駐日事務所アドバイザー、朝日新聞紙面審議委員、毎日新聞社国際交流賞選考委員など。

長 有紀枝（ジャパン・プラットフォーム共同代表理事）

元NPO法人難民を助ける会専務理事・事務局長。同会在職中に紛争下の緊急人道支援事業(ボスニア、チェチェン、アフガニスタン、パキスタンなど)や地雷対策事業(カンボジア、コソボ、アフガニスタンなど)、地雷禁止国際キャンペーン(ICBL)の対地雷廃絶活動に携わる。2006年7月より現職。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。青山大学大学院、東海大学等で教鞭もとる。

大泉 村子（三幸株式会社清掃担当主任）

1991年より現在まで、国連大学ビル内の清掃管理を担当。新宿区自治会の地区代表として、地域の環境保全や掃除ボランティアの編成・実施などで活躍。

坂下 可奈子（UNHCRユース共同代表）

1987年香川県生まれ。立教大学法学部2年在籍中。専門は国際・民族紛争。UNHCRユース事務局共同代表としてメンバーマネージメントを担当。大学2年生の夏休みにルワンダに行き、難民問題に対する見解を深めた。将来の夢は映画、アニメーション制作会社に入って、声なき声をたくさんの人に届けること。モットーは「いってみよう、やってみよう」。

篠田 英朗（広島大学平和科学研究センター准教授）

ロンドン大学(LSE)で国際関係学Ph.D.を取得、ロンドン大学およびキール大学で非常勤講師を務めた後、1999年より広島大学平和科学研究センター助手。2005年より現職。紛争後地域における平和構築活動について研究を進めている。ケンブリッジ大学ローターバクト国際法研究センターおよびコロンビア大学人権研究センターの客員研究員を歴任。著書に、「平和構築と法の支配：国際平和活動の理論的・機能的分析」(創文社、2003年)(朝日新聞社2003年第3回大佛次郎論壇賞受賞)など。 <http://home.hiroshima-u.ac.jp/hshinoda/>

ナヴィダ・マハジャン（広島平和構築人材育成センター事務局(HPC)研修員）

インドのChandigarhで大学教員として勤務。平和構築が専門。8年間にわたって人権教育および平和学を修めた。現在は、学生への指導のほか、紛争解決や南アジアの平和の概念の形成について研究を進めている。

氏家 陽子（広島平和構築人材育成センター事務局(HPC)研修員）

国際政治・開発計画学を修めた後、国際・国内NGOやJICA等で主にアジアを中心に現地経験をつみ、さまざまな事業運営に携わった。HPC海外実務研修では、UNHCRネパール事務所にAssociate Protection Officerとして派遣され、難民の保護に従事した。

ベセリン・ポポフスキー（国連大学 平和とガバナンスプログラム学術審議官）

ブルガリア外務省勤務(1988年-1996年)。ロンドン経済大学にて修士号(国際関係)、キングス大学にて博士号取得。英国・米国の数多くの大学にて講師を務める。欧州連合と国際人権ヘルシンキ連合に勤務(2002年-2004年)。

岡田 直子（株式会社ECナビ経営本部本部長）

2001年に神戸女学院大学を卒業後、サン・マイクロシステムズ入社。同社退社と同時に立教大学大学院ビジネスデザイン研究科に入学し、経営学を学ぶ傍らベンチャー企業2社を経て、2005年1月よりECナビの広報を立ち上げる。2007年10月より現職。

小柴 英子（株式会社ユニクロ法務部/CSRチーム ユニクロボランティアクラブ事務局）

大学卒業後、広告代理店・外資系アパレルを経て、01年にユニクロ入社。社会貢献事業を一手に担当。

横井 啓之（株式会社ABC Holdings代表取締役）

1964年生まれ。1987年(株)ジェンヌ(現:株ABC Cooking Studio)を設立。食生活の大切さを伝えていきたいという想いのもと、料理教室のABCクッキングスタジオをスタートさせる。その後スタジオの全国展開をおこない、会員数19万人までに拡大させた。その他、ABC Cooking リアルマーケティング(株)、(株)エービーシーキャピタル、(株)エービーシースタイル、(株)ABCモール、(株)ボディーズなど女性の美と健康をテーマにした会社を設立、経営に携わる。現在は、食育をテーマにした子供のための食のスクール「abc kids」や料理を通じたコミュニケーションをテーマにした「ABC Cooking Studio+m」や「ABC Cooking Studio plus international」など独自の感性で新たな業態を起案している。(株)ABC Cooking Studio代表取締役社長を2007年3月に退任し、現在の(株)ABC Cooking Company (現:株ABC Holdings)代表取締役就任に至る。

水田 慎一（株式会社三菱総合研究所政策アナリスト）

ニューヨーク大学大学院修了。東京大学大学院「人間の安全保障」プログラム博士後期課程在籍。1996年外務省入省。北米第一課、東欧課、南東アジア第二課、大臣官房総務課等を経て同省退職。2002年11月より現職。外務省でコンボ、東ティモールの紛争解決・復興開発に従事。現在大学院にて紛争後国家建設の研究に取り組むとともに、「平和構築とビジネス」研究会を主催。

道傳 愛子（NHK解説委員）

上智大学外国語学部英語学科卒業後、NHK入局。94年から96年まで米国 ニューヨーク・コロンビア大学大学院、国際政治学修士号取得。「NHKニュースおはよう日本」「NHKニュース9」を経てバンコク支局特派員としてタイ、ミャンマーなど東南アジアを取材。「NHK海外ネットワーク」を担当後、07年6月より国際情勢担当の解説委員。東南アジア、開発問題を担当。05年11月には「国連世界情報社会サミット」(チュニジア)日本政府親善大使を務める。

鈴木 順子（『外交フォーラム』編集長）

横浜市立大学文理学部卒業。青山学院大学大学院国際政治経済学研究科修士課程修了。株式会社野村総合研究所勤務を経て、1998年2月都市出版株式会社入社、『外交フォーラム』編集部配属。2004年4月より現職。

水野 孝昭（朝日新聞論説委員）

東京大学法学部卒業。1981-82年東京大学新聞研究所(現社会情報研究所)研究生、1982年朝日新聞社入社、1987-89年米ジョンズホプキンス大高等国際問題研究大学院(SAIS)修士課程修了(専攻:米外交思想史)、ハノイ、ワシントン特派員、ニューヨーク支局長などを歴任後、現職。著書・論文に、「ブッシュ政権の対北朝鮮政策」、「二人の日本人」、「戦後50年、みんな生きていた」など。

マエキタミヤコ（コピーライター、サステナ代表）

1963年東京生まれ。環境NGOのためのクリエイティブエージェンシー[サステナ]代表。広告表現制作責任者、コピーライター、CMプランナー。97年よりNGOの広告「NO WARぬりえピースブラカード」、100万人のキャンドルナイトなどで、NYTDC賞、東京TDC賞、準広告電通賞、日経「話題になった広告」、グッドデザイン賞など受賞。「100万人のキャンドルナイト」呼びかけ人代表。「ほっとけない世界のまずしさ」キャンペーンアドバイザー。エコスタイル誌『エココロ』編集主幹。著書に『エコシフト』(講談社現代新書)、『でんきを消して、スローな夜を』(監修/マキノ出版)『100万人のキャンドルナイト』(監修/ブルーオレンジスタジアム)『世界から貧しさをなくす30の方法』(監修/合同出版)。

